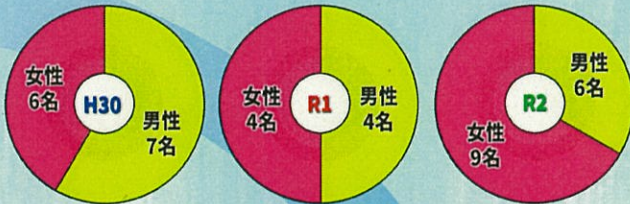


<理容業のこれから>

最近では、女性の社会進出は珍しい事ではなくなりました。男性の職業というイメージが強い理容の業界ですが、近年では全国的にも女性理容師は増加しており、徳島でも十数年前から理容師を目指す女性が増えてきています。その証拠に理容科においても、近年では入校者の男女比は、下表のように女性が多い年度が続いています。



また就職においても、女性従業員について企業側からの求人も年々強まってきており、そのニーズの高さがうかがえます。ですから、『資格は取ったけど就職できない』という状況とは無縁です。技術習得後の展開でも男性よりも有利な点も多く、例えば…

- ブライダルシェーピングのような、広範囲にわたるレディースシェーピング
- 男性にも女性にも当たり良い接客

と、このように男性では踏み込めない、女性でしかできないような部分を軸とした店舗展開も考えることができます。しかも、男性美容師なら年齢を重ねると女性への接客がどうしても限定されてくるのに対し、女性理容師はいつまでも現役で男性女性どちらの客層にも対応することができるので、仕事の幅も広がります。そして独立すれば、自分の生活状況にあわせた営業をできるようにもなるので、技術・資格と全体的に考えてみても、その将来的なメリットは大きいでしょう。以上の事を踏まえると、これからは女性こそが狙うべき職業となってくるのかもしれない。



理容科が発行する、
ヘアデザイナーを目指す方の為の
必読書!

Hair Designer's NOTE

◆ CONTENTS ◆

- よくある質問、答えます。ヘアデザイナーQ&A
- 超便利! 逆引き資格辞典
- 特別収録 アドバイスマップ

・・・その他、役立つ情報が盛り沢山!

ご連絡いただければ無料で差し上げますので、理容科までどうぞ!

<その他、問い合わせ先>

〒770-0865

徳島県徳島市南末広町23-64

TEL:088-678-4690

FAX:088-678-4692



<目標と職業>

理容と美容は、一般的には混同されがちです。どちらも髪をさわる職業ですから無理ありません。同様に、<免許を得る事>と<技術ができる事>も混同されることがあります。

『免許を得る=技術はできて当たり前』や『免許を得る=一人前の技術者』と考える方も少なくはないと思います。

確かに、『免許』は、<最低限の技術・知識を得たと認め、定められた技術を行うことを許可するもの>であるのでとても大切ですが、決して<技術力や知識の高さ・多様性を保証するもの>ではない…ということです。

つまり、免許を得るということは…

○理美容の最低限の技術・知識を得ている

○理美容を業とすることができ

というだけに過ぎず、どれだけ種類の技術ができるか、どれだけ種類の技術ができるか、どのくらい上手か…等は、技術者の持つ能力次第ということになります。

これまでの説明で、

○免許の取得=技術の上手下手…ではない

○理美容の仕事内容は、イメージほどかけ離れていない

と、ということがわかったと思います。

つまり、「免許さえ持てば…」とか「美容の方がおしゃれなイメージだから…」とかいう考えで、安易に『理容師』『美容師』を目標にしないほうが良いということです。

下の表を見てもらえばわかると思いますが、理美容といっても、その中には色々な種類の技術がたくさん含まれています。

| 技術の種類 | 理容師 | 美容師 |
|-------------------------|--------------------------------------|-------------------|
| A: 専門に行える技術 | 顔そり等のカミソリを使った技術 | まつげエクステ 結髪、着付け |
| B: 得意とする技術 | 精密なカット・セット | 長髪のカット・セット |
| C: その他個々の技術者の技術幅に由来する技術 | パーマ、カラー、縮毛矯正、 エステ、ネイル、ヘッドスパ …etc. | |

ここでは、項目Aにあるような法律で規制されていて専門的な技術もありますが、そんなに多くはありません。むしろ、項目Bや項目Cのような、重複している技術の方が多いのです。

そうなってくると、職業を先に決めるのではなく…

○どういう種類の技術を身に付けたいか

○どういう性別や年齢層を相手に仕事をしたか

等の仕事の内容を考えて、それからどの職業に就くかを決める方が良いのではないのでしょうか。

『エステ』をメインとし、『カット』や『スタイリング』もしたいだけなら、どちらにも項目Aが含まれていないので、正直理容師・美容師のどちらでも構いません。しかし、『エステ』をメインに『お顔そり(項目A)』もしたいなら、項目Aが含まれているので理容師でなければいけませんし、『エステ』をメインに『着付け(項目A)』や『結髪(項目A)』をしたいなら、美容師でなければできません。

このように、自分がどのような技術を行う技術者でありたいかという、『なりたい技術者像』を決め、それを目標にして職業を決めると間違いない職業選択ができるでしょう。

<道すじのヒント>

理美容の免許は両方取得することもできます。

特に最近は、その傾向が強いようです。

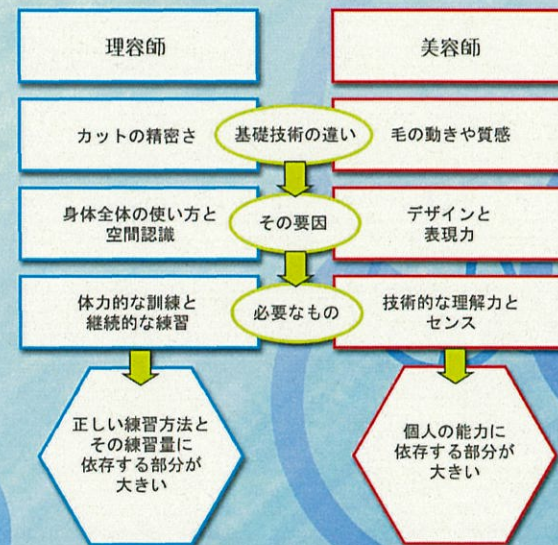
一方を昼間過程で、もう一方を通信課程で同時に進めるといふ荒業もあるようですが、金銭的な部分や体力的な部分でもなかなか難しいでしょう。

ということは、どちらかを先にする必要があります。

そういつた時に、どちらを先に取得するか…そのヒントの一つ、提示したいと思います。

◎基本の違い

どちらも同じように難しいと思いますが、下のような比べ方もあります。これはスタイリングの基本となるカットに関して比較した表です。

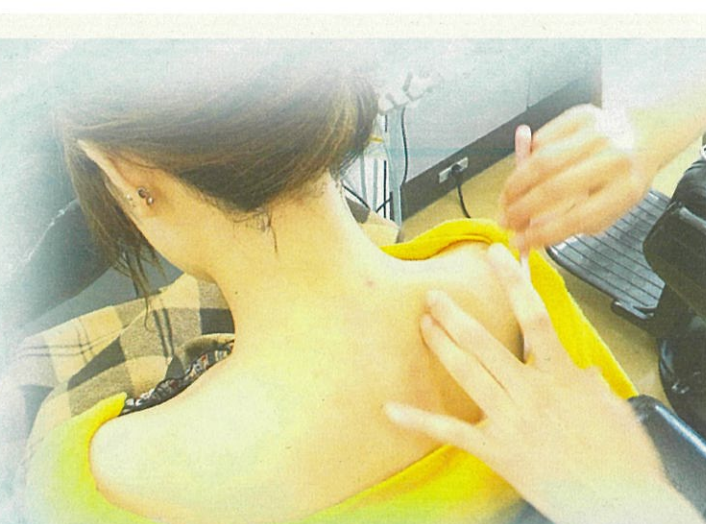


こう見ると、体力的な部分や身体で覚える要素の強い『理容』から身に付けると有利だとわかります。なぜなら、身体で覚える事は、なるべく若いウチが良いからです。もちろん、カットだけでなく、カミソリの取り扱い等も手指及び身体の緻密なコントロールが必要になるため、若いウチが良いでしょうからこれに該当します。

実際、美容師としてそれなりに経験を積んだ人でも、実技訓練をした後に必ず言う言葉が、

『先に理容を勉強しておけば良かった』

です。一人前の美容師として働いていても、理容の基礎は身に付けにくいのだそうです。



さて、次に理美容のイメージについてです。

理容と美容をイメージで区切るとすれば、理容店は男性客、美容店は女性客という分け方ではないでしょうか。

しかし、最近では男性客も美容室でカットをしますし、女性客も理容店でお顔そりやエステをします。つまり現状では、店の見た目や雰囲気等も含めて、理美容の境目が曖昧になってきているのです。実際に、女性客がオシャレな美容室と思って通っていたら、本当は理容店だった…という話も耳にします。正直、利用する側にとっては、望んでいるサービスと雰囲気を得られればどちらでも構わないでしょう。

逆に技術者やお店からすればどうでしょうか。技術者やお店は法で規制されているので、法で決められている技術については順守しなければなりません。しかし、世にあるすべての理美容系技術に法の規制や分類があるわけではなく、それぞれのお店のスタンスや技術者の習得幅によることも少なくありません。